

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看学発 第6巻 第4号

2020年3月号

浜田医療センター附属看護学校

65期生卒業証書授与・・・1P～4P

67期生模擬患者演習・・・7P

66期生看護研究発表会・・・9P～10P

67期生基礎看護学実習I(その2)まとめの会・・・5P～6P

66期生特別講義を受けて・・・8P



65期生37名

ご卒業おめでとうございます！！

独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
TEL0855-28-7788
mail : kanri-t@hamakan.nh.jp
https://hamada.hosp.go.jp/kango/index_00001.html

発行責任者 石黒眞吾
編集責任者 高下智香子
編集 田儀千代美、畑中美保、崎本美子、岡本諭、
山岡富美香、福嶋洋子、平田洋子、
三家本八千代、尾川ひとみ、岩成美樹、
松野由香、金山和正、木屋佳奈恵



～65期生 卒業証書授与～

学校長お祝いの言葉

第65期生、37名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

浜田医療センターならびに附属看護学校の職員は皆様のご卒業に心よりお喜び申し上げます。今、一人一人の方に卒業証書を渡し、皆さんの緊張の中にも笑顔に接し、皆さんの喜びが伝わってきました。私も学校長として最後に皆さんを送り出せることをとてもうれしく思います。

新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な影響が出ています。本来ならこの場でともに喜び、皆さんが感謝の気持ちを伝えるべきご家族の方、そして別れを惜しむ在校生の方が参加されていないのは大変残念であり、このような形で卒業式を迎えることは皆さんも不本意のことと察します。しかし、日本全国で同じような思いをされている人がたくさんいます。時がたてばきっといい思い出となると思います。

3年前、皆さんは看護師を夢見て、この体育館で入学式を迎えられました。多少定員オーバーした学年であり、その分個性豊かな面々がそろっていると聞きました。途中で別の道に進んだ仲間もいたわけですが、入学時49名でありましたが、今は37名となりました。しかし、皆さんは困難を乗り越え、一人一人が努力を積み重ねてきました。この3年間で医学・看護を中心に学んで確実に成長されました。時には、自信をなくして、看護師となることに迷ったことも幾度かあるのではないかと思います。

今、3年前に目標とした看護師資格を得て、看護師として社会に一步を踏み出そうとしています。教員も勉学のみならず、日常生活についても皆さんを見守り、3年間粉骨砕身、頑張ってきました。浜田看護学校で学んだことに自信を持って社会に出て行ってください。私は入学式であなた方を迎えたとき、この65期生とともに学校長を卒業するのであるから、もっとあなた方と接する時間を作っていこうと心の中で誓ったのですが、なかなか思うようにできませんでした。できるだけイベントの参加し、自ら国家試験を勉強し、3年生のあなた方に特別講義をなどと思っておりました。唯一、1年目に弥栄ふるさと体験村での宿泊研修でカレーを一緒に作ったことぐらいでしょうか。

今後、看護師としての自分の将来をしっかりと見据え、自身が納得する看護を確立していかれることを期待します。ただし、独りよがりの看護ではありません。周囲との調和、協調を大事にしていきたいと思います。

最後に、本校を巣立っていく皆様が悔いのない人生を歩まれることを願ってやみません。

本日はおめでとうございます。

令和2年3月6日

浜田医療センター附属看護学校 校長

石黒真吾



学校長 石黒 真吾



卒業生お礼の言葉

新型コロナウイルス流行のさなかにもかかわらず私たち65期生のために、思い出に残る卒業証書授与の時間をつくって頂き、誠にありがとうございます。この3年間、多くの方に支えられて看護師になるために大切なことをたくさん学ぶことができました。とくに臨地実習での看護実践を通しての学びは、自分自身の成長につながったと感じています。その中でも印象に残っているのは、慢性腎不全で緊急に透析をすることとなったA氏との関わりです。受けもって間もない頃、A氏は、私を手で押すような動作や興奮して大声を出されることがありました。私は、怖いという感情を抱き、A氏と関わることに少し抵抗を感じるようになりました。しかし、実習を通して学習を重ねていき、A氏のそのような行動は尿毒症による不穏状態であり、急変や転倒、危険行動のリスクが高いということが分かってきました。そのため、指導者や教員の助言を受けながら、可能な限りA氏のそばにいて安全を守ろうという使命感が芽生え、頻回に訪室するように心掛けました。また、透析時には、「しんどいですよね」とA氏の気持ちを受容するよう声掛けを行い、腕や足をさすりながら透析に付き添いました。清潔ケアでは、A氏の希望を聞きながら行いました。A氏は病状の改善も伴い、急変することなく安全に過ごすことができるようになりました。実習の最終日には、「あんたが来るのを楽しみにしてたよ。ありがとう。」と言われ笑顔が見られるようになりました。私は、このA氏との関わりを通して、常に患者に関心を持ち、患者自身や疾患について理解していくことの重要性を学びました。今後、患者の日々の小さな変化も見逃さず、患者の安全を守り、苦痛を最小限にし、治療に専念できる看護を行っていきたいと思います。

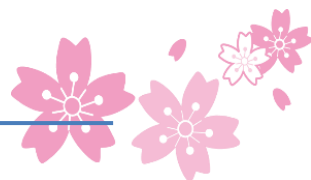
そして、3年前、ここにいる65期生の仲間と出会ってから、多くの悩みや喜びを共有し、どんな時にもこの仲間と多くの時間を過ごしてきました。悩んだり苦しかったりすることがあると相談し合い乗り越えてきました。また、そんな中でも楽しいことを見つけては、笑顔の絶えない明るいクラスでした。この仲間と過ごした3年間は私にとってかけがえのない宝物です。私たちが日々成長し、この卒業という日を迎えられたのは、浜田医療センターをはじめとする内外の講師の先生方や実習で熱心に指導して下さった看護師の皆様、一番近くで支えてくれた家族、そして受け持たせていただいた患者様や家族様の協力があってこそだと思います。言葉では表せられないほど感謝の気持ちでいっぱいです。また、国家試験に際して、先生方には、個性豊かな65期生一人ひとりに合わせて、時に厳しく指導をして頂き、私たちは国家試験に向けて精一杯取り組むことが出来ました。国家試験本番では全員が全力を出しきることが出来ました。最後までサポートして下さいありがとうございました。私たちは今日、それぞれの道に向かってこの学び舎を巣立ちます。この3年間、本校で出会った方々から頂いた大切な学びを深く胸に刻み、今後も確かな知識と技術を磨き、自分たちの理想とする看護師像に向かって日々努力を惜しまず自己研鑽して参ります。今後、社会の中で貢献できる看護師として成長していくことを誓ってお礼の言葉とさせていただきます。

令和2年3月6日 卒業生代表 金山由佳



3年生 金山 由佳





卒業前「看護を語る会」に参加して

私はこの看護を語る会を通して、看護学校で過ごした3年間で自分の看護に対する思いの変化や考え方に深まりがありました。この語る会を行うにあたってどの実習について発表しようかと1年生の基礎1の実習から振り返りました。一番印象に残った老年看護学実習で受け持たせていただいた、A氏のことを発表しようと思いました。A氏は発語困難、意思疎通の困難な方でした。私は、看護過程を展開していく中でA氏が苦痛に感じている時に眉間にしわがよる・筋緊張が強くなることに気付き、それを思いの表出の1つであると考え看護を行って行きました。実習を進めていき、卒業前にもう1度A氏に行っていた看護を振り返りました。その時は、A氏にとって一番適した看護を行っていると考えていましたが、振り返ってみると、もう少し他にA氏の思いが分かるサインがあったのではないかと考え、あの時と違う視点でその時の看護を振り返ることが出来ている自分自身の成長を感じることが出来ました。これから看護師として働いていく上で自分の大切にしている看護を追及し、自己研鑽して看護観を深めていきたいと思います。



3年生 若槻 朱里

1年生に伝えよう



2月26日に『1年生に伝えよう』という授業の中で、吸引の技術について1年生と一緒に技術練習を行いました。3年生にとって、1年生に援助の実際を理解してもらうために基礎的な援助の仕方や知識を再確認する機会となりました。そして、1年生にとっては実習で3年生が経験してきた基礎に基づいた援助に加え、実際に看護師から教えて頂いた医療現場で行っている吸引のポイントなどを知ってもらう良い機会になったと思います。3年生6名、1年生5名の小グループで実施することにより、1年生にも伝えやすく、3年生に対しても質問をしやすい環境であったと感じました。1年生からは、「吸引の時には、どういったところに注意が必要ですか」や「どのように吸引をしたら患者さんにとって苦痛が少ない吸引ができますか」などの質問があり、質問されたことに答えていくことで3年生は自信にも繋がったと思いました。

今後は看護師として患者さんの援助を通して、看護学校で学んだ基礎的な援助技術を大切にし、そこから患者さん一人ひとりの個別性に合わせた援助を提供していくことが必要となると改めて感じる事ができました。



3年生 細見 一稀

看護師国家試験を終えて

3年生から国家試験を意識して過ごしてきましたが、実習や看護研究で忙しく試験勉強ができない日もありました。しかし忙しくても先生と相談しながら勉強のスケジュールを組み立てることで効率よく勉強をすることができました。模擬試験中はミス減点を減らすためにマーク確認をし、残りの時間は思い出し作業をして自分の知識の確認をする時間にしていきました。国家試験前の最後の模試で思ったような点数をとることができず落ち込みましたが、先生や友人に支えられそこから気持ちを切り替えて、確実に覚えていくこと、覚える範囲を広げていくために集中的に曖昧な分野を学習しては、毎日確認をしていくことで少しずつ不安が減っていき、国家試験に臨むことができました。振り返ると、2年生のころからもう少し国家試験対策のための時間をとるべきであったと思います。早い段階から勉強を行い、知識を身に付けていくことが重要であると実感しました。後輩にも、この経験を伝えていきたいと思います。



3年生 三原 麗華

卒業生に贈る言葉

第65期生の皆様ご卒業おめでとうございます。当園の実習では看護学生としての専門的立場からの観察、そして優しいお兄さん、お姉さんとして一人ひとりの子供たちと接し見守って頂き、私たち職員も色々な面から子供たちを見直すことができました。看護の現場でもこの実習で学んだ健康な乳幼児の成長段階を参考に仕事に生かしていただければと思います。ご健闘をお祈り致します。

社会福祉法人さくら会みのり保育園 園長 長谷川 紀子

第65期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今日からは、私たちと同じ仲間ですね。まずは、自分が求める看護師像をブレずにしっかりと追い求めてください。看護の仕事は、楽しいことばかりではありませんが、やりがい感もあり、知れば知るほど楽しいと思う仕事です。不安や心配もあると思いますが体調に気をつけて頑張ってください。

浜田医療センター附属看護学校 同窓会長 石本 泰子



～67期生 基礎看護学実習Ⅰまとめの会～

個別性に依じた食事介助

2月20日に実習指導者さんも交えて基礎看護学実習Ⅰ（その2）のまとめの会が行われました。私達のグループは、食事介助で学んだことをテーマに誤嚥・窒息しないように、患者さん個々にあった食事ペースや、食事形態、食事体位についてアセスメントすることの大切さ等を発表しました。発表後のディスカッションでは、実習指導者さんに様々な意見をいただき、学びを深めることが出来ました。また、他の実習グループの発表を聞いて、他の病棟の患者さんに対する日常生活援助について学びを共有することができました。今回の学びを今後に生かしていくと共に、次回の実習に向けて看護技術が向上するように、日々の学習を頑張っていこうと思います。



1年生 大國 希帆



学びを共有することの大切さ

私は、基礎看護学実習Ⅰ（その2）で退院に向けたリハビリを行っている患者さんを受け持ち、看護師は患者一人ひとりに合った援助をしているということを知りました。

それらの学びをふまえて参加したまとめの会では、指導者さんから様々な視点でたくさんのアドバイスをいただきました。また、まとめの会を通して学んだことは、グループで学びを共有することの大切さです。グループのメンバー同士で意見を交換することは、患者さんにどのような援助を実施すれば良いのかというアイデアを引き出す糸口になると思います。今回学んだことを次の実習に活かし、より良い看護を提供していきたいです。



1年生 澁谷 優衣



～67期生 模擬患者演習～

足浴・全身清拭(寝衣交換)について

私達1年生は、シルバー人材センターの方々を模擬患者として、これまでに身に付けた看護技術を実践する演習を行いました。当日は、模擬患者役の方に足浴、全身清拭(寝衣交換)、洗髪の中から選んでもらい、学生間で協力して実施しました。模擬患者さんからは、声のかけ方やお湯の適温など多くのご意見を頂きました。この演習を通して、学生同士では見つけることができない課題を沢山見つけることができました。今後はこの課題を学生同士で話し合いながら改善し、実習や授業などの日頃の学びに活かしていきたいと思えます。

シルバー人材センターの皆様や指導者の皆様、ありがとうございました。



1年生 稲若 沙姫

洗面器の位置はこのへんでいいかな？



力加減はどうですか？



緊張するな……



声かけが丁寧でよかったですよ

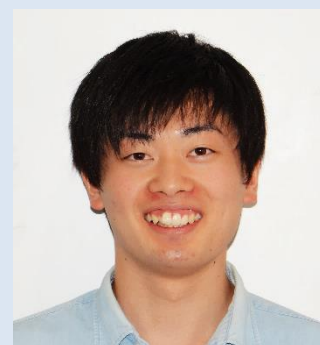


～66期生 特別講義を受けて～

看護師国家試験対策講座を受けて

私たちは2年生の10月頃からクエスチョン・バンク（QB）という必修問題集を全員が購入し、チューター制で担当教員に報告しながらグループ学習をすすめていました。毎月1回ある小テストで自分たちの到達度を把握しながら、終了試験や臨地実習がある中、日々勉強に励んできました。3月9日には、看護師国家試験に向けてどのような学習をしていけばよいかを、看護師国家試験対策吉川塾の吉川久美子先生に特別講義をしていただきました。3年生になると実習が多くなりますが、実習の時にしっかりと病気や解剖生理などを理解していく必要があることと、試験問題を解くだけでなく、多方面からの学習をしていくことが必要であると感じました。

3月13日には、今年卒業された先輩方から国家試験対策学習についてや、実習と学習をつなげていく方法など、アドバイスをいただきました。今回いただいたアドバイスを活かして実習と国試勉強を結びつけて国試対策に取り組んでいこうと思います。看護師国家試験合格は、あくまでゴールであり、看護師としてのスタートでもあると思いながら、ナーシングセレモニーで誓った自分の理想の看護師になるために頑張っていこうと思います。



2年生 植田 羅偉



就職・進学に向けての特別講義を受けて

就職・進学に向けて、3月3日に「小論文の書き方」について、3月11日に「履歴書の書き方や面接でのマナー」について、就職の際に必要な具体的な内容の特別講義をして頂きました。小論文については、どこを重要視しているのか、書き方として何が必要かなどを学びました。実際に演習で書いてみましたが、体験から考察、結論に繋げることが難しく練習していく必要があると感じました。面接については、自己分析から志望動機につなげていくことが必要だと学びました。また、自分の考えを伝えることが大切であり、面接の際のマナーや注意点、身だしなみのことなどを丁寧に教えていただいたため、実際の面接時に活かせるようにしていきたいです。



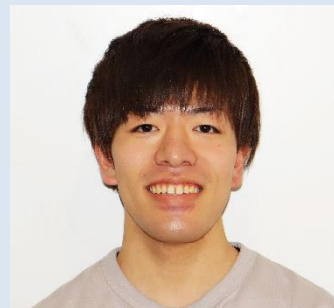
2年生 齋藤 寛巖

～66期生 看護研究発表会～

QOLの維持・向上には患者の気持ちを尊重

看護実践をケーススタディにまとめる意義として、受け持ち患者に行った看護を改めて整理し、事例展開を行うことで看護技術の向上や、患者の日々の変化から気づきを得ることであると考える。

私の受け持った患者さんは、誤嚥性肺炎を繰り返しており、誤嚥のリスクが高い状態でした。しかし、食事介助の際に「自分でできる」と食事に対する意欲が見られました。自力で食事を行おうとする意欲があることはA氏の強みであると捉え、A氏の気持ちを尊重し一緒に食器を持ち、食事介助を行っていくことがA氏の自尊心を低下させずQOLの維持・向上をするためには大切であると考えて計画に取り入れました。このように日々の観察の気づきからA氏にとって自分らしく食事を食べるための援助につながると考えます。また、自分で食べたいという気持ちを尊重した看護を行うにはどうすればよいか考え、一緒に食器を持つという援助を行えたことが、相手に合わせた看護技術の向上につながったと考えます。今回の看護研究でA氏の事例展開を行ったことで、QOLの維持・向上には患者の気持ちを尊重し、残存能力を引き出す関わりを行うことが重要であると分かり、患者の立場に立ちながら安全に看護を行っていくことが大切であると学びました。



2年生 清井 渉平



グループに分かれて発表をしました



個人情報厳守してプライバシー保護を徹底

2年生の1月から、領域別実習が開始となりました。実習で行った看護を振り返る機会として、『看護研究』の講義でケーススタディを行い、3月11日に研究発表会を行いました。看護研究として、ケーススタディを行ったことで、今後、看護実践をケーススタディにまとめる時の課題としては、患者への倫理的配慮を慎重に行うことです。倫理原則にもとづいて、個人情報を厳守してプライバシー保護を徹底して注意することで、研究させていただく患者に不利益になる事がないと思いました。また、今後の臨地実習の際に患者の疾病に対する情報はもちろん、生活史や価値観など様々な情報を収集し、詳細に日々の記録を丁寧に記載することです。患者さんを理解するために、適切なタイミングで重要な情報を収集することで、相手をよく知り、実践に活かすことができると考えました。これは、ケーススタディを行う際にも、様式に沿った記載がしやすくなり、自身の疑問や課題が明確になりスムーズにケーススタディを行うことができると思いました。



2年生 堀 美夢



参加者全員で意見交換しました



コーヒーブレイク

(教務室のつばやき)



3年生担任 平田 洋子

縄文・弥生・古墳時代に想いをはせている歴女な私は、休みがあれば島根・鳥取県にも訪れていました。しかし、昨年度より浜田に来て、長期滞在型旅行をしている気分で日々の浜田ライフを楽しんでおります。日帰りでも本にある発掘物や古墳を見に行けるなんて感動しきりです。そして、もう一つの楽しみは温泉です。美人県の言われどおり良い温泉がたくさんあります。赴任時宣言した島根県の温泉のコンプリートはまだですが、現在制覇中です。お肌に良いお気に入りには美又・風の国、美都、荒磯です。肩こり効き目のお気に入りは温泉津、湯谷がじんわり入っていられていい感じでお勧めです。



3年生担任 田儀 千代美

春の楽しみ・・・。

春が近づくと、菜の花、蒔の臺、筍、ぜんまい、ワラビの採取にこころウキウキ。

しかし、春の戦いがあるのです。筍私が掘るのが早いか、猪が早いか我が家では常に戦っています。朝早くに山に出かけていかねば、猪に取られてしまうと。欲深く思うのです。

動物も人間も美味しいものが大好き。皆さん、筍はどのような料理がお好きですか？私は、やっぱり春らしく筍の木の芽和えと定番の煮物です。旬を食べ、体を鍛えて免疫力を高めよう！（コロナよ飛んでいけ）。



専任実習指導教員 三家本 八千代

14歳と19歳の娘たちと話していると、時々聞こえてくる現代っ子言葉・・・。



「それな！」＝そうそう、「ワンチャン～」＝一度のチャンス、たぶん、「えもい」＝とにかくやばい、「ぴえん」＝悲しいときに使う、「〇〇しか勝たん」＝〇〇が1番好き！などなど。40代のおじさん（夫）とおばさん（私）が知ったげに使って会話してみると、「なんか使い方がおかしい～」とゲラゲラと大笑いされます。おじさんおばさんも若い子についていくのが大変です。コロナウィルス流行（外出自粛）のおかげで会話も弾みます。いつの時代も言葉の移り変わりがありますが、会話することは楽しいですね。

